

令和6年度 とまり樹はうす 事業報告書

1 総括

令和6年度においても緊急相談のほかレスパイトや将来の自立のための宿泊体験利用の受け入れなど合計30名の様々なニーズに対応した。その内、家族が緊急入院するケースが1件あり当日の内に数日間の居室と職員の確保を行うなど柔軟に対応することができた。その一方で、開所時以降の目標である土日祝日の開所については、人材の確保が厳しい状況が続いており、今年度も月に2日程度の緊急相談のみの開所となった。5年度末に見直しを行った個別支援計画の共有、計画に基づいた支援、支援経過の記録など支援の質は少しずつ向上しているように感じるが、職員個々の考えで支援にあたる、記録の不足や、曖昧さなどはまだ見られており、継続的な取り組みが必要である。また、今年度は怠薬事故が1件発生してしまったことは大きな反省点である。改めてマニュアルを周知したほか業務チェック表の導入により業務前に確認する事項の徹底を図った。

2 事業概要

- 1) 施設名 とまり樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（グループホーム併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市花小金井南町1-26-28
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 2名
- 6) 利用契約者数 57名
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成28年4月1日
- 9) 職員（令和7年3月31日現在）
管理者 1名
生活支援員 15（常勤換算10.3）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援

7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	日中活動先及び勤務先等へ外出
16時00分～	17時00分	利用開始
16時00分～	20時00分	入浴
18時00分～	19時00分	夕食
20時00分～	22時00分	就寝

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 利用者支援の充実を図る

① PDCAサイクルの実施

- ・ 個別支援計画の共有
- ・ 計画に基づく支援
- ・ 利用者の様子や支援内容等の記録
- ・ 支援の評価と必要に応じた計画の見直し

(会議等による個別支援計画の周知の他、閲覧環境を整備し、受入前に担当職員が計画を確認する。職員の業務チェック表で実施の有無を確認する。)

(本人や家族から感想や利用後の様子等の聴取し、評価に活かす。)

② ケース記録の充実

- ・ 利用者の行動のみでなく、その背景や心情の考察
- ・ 利用者の嗜好、変化等に対する気づき

(管理者や現場責任者がケース記録を随時確認し、必要に応じて助言指導を行う。職員の業務チェック表で実施の有無を確認する。)

【成果と課題】

令和6年度に利用した30名全員の個別支援計画を作成し、この内5名については一部見直しを行った。これまで、個別支援計画に基づいた支援の実施が課題であったことから、今年度より業務チェック表にて、業務の前後に確認する事項を具体的に示した(支援計画や申し送り事項の確認、ケース記録や申し送り事項への記載内容等)。これにより、利用者個々の支援内容を毎回確認し支援を行うようになったことで、主たる職員や職員同士で利用者の状況や支援方法を共有する場面も徐々にみられるようになってきている。ただし、記録については、非常勤職員が多いことから、勤務時間の関係で、管理者や主たる職員がその場で全職員に確認、指導を行うことが困難で、不足や曖昧さなどの改善が徹底されていない。少しずつにはなるが、根気よく繰り返しの指導を継続する必要がある。

③ 事故防止

- ・ 服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・ 無断外出行為のある利用者の安全確保のため、見守りを徹底する。また、必要止むを得ない場合は本人、家族の同意を得て夜間の建物施錠を行う。
- ・ 個々の利用者の行動特性に応じた危機管理方法を定め、共有する。

【成果と課題】

怠薬事故1件発生(詳細は「9 事故報告」に記載)。この他、けがや離接等の事故は防ぐことができた。

(2) 緊急対応の役割を果たす

365日の支援体制を整備し、緊急対応の支援を行うことでセーフティネット機能の役割を果たす。

❖常勤換算1.4名を採用し11.0名の支援体制とする。

【成果と課題】

30名の利用者の内、緊急利用は9名で延べ152日、体験利用は21名で延べ283日だった。3月末現在、職員15名、常勤換算10.3人（全員グループホームとの兼務）で、必要な常勤換算数には、0.7名不足しており、特に男性利用者の支援を行える土日祝日の夜勤及び日中支援が不足している。そのため土日祝日については体験の受け入れを行わなかったが、緊急時は、平日に勤務している職員の勤務調整により支援体制を確保し、土日祝日も含め概ね希望通り受け入れることができた。

《土日祝日の受け入れ人数》

令和5年度 実人数 5名、延べ17日

令和6年度 実人数 6名、延べ25日

2) 人材育成

(1) 管理者、現場責任者の指導力向上

【成果と課題】

個別支援計画の共有を図り、計画に基づいた支援を行った。新たな支援の方向性を検討する際は、主たる職員より、その他の職員に対し入居者の心情面に配慮した視点を説明したうえで具体的な支援方法を提案する場面もみられるようになり、支援スキルの向上が図られていると感じている。記録については、まだ記載すべき事項の判断が不十分であったり、管理者による確認が遅れることがあり、記載漏れや支援経過が分かりにくいものがみられる等の課題がある。

(2) 利用者の特性理解と関係性構築

【成果と課題】

多くの利用者は長年定期的に利用しており、職員との関係が構築できている。また、個別支援計画等の共有により、特性の共通理解や声掛けの方法などの支援方針や方法を統一できるようになったことが、より利用者の安定に繋がっていると感じている。

(3) 職員間情報共有強化

【成果と課題】

1) (1) ①②に記載の通り。

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

(2) 介護給付費収入等の安定確保を行う。

	令和6年度目標	令和5年度実績	差
利用率	70%	58.5%	11.5%
介護給付費収入	約500万円	464万円	36万円
都加算収入	約200万円	177万円	23万円
公費収入合計	約700万円	641万円	59万円

【成果と課題】

1) - (2)に記載の通り、土日祝日の支援体制が確保できず、利用率は目標を下回った。前年度同時期比では、利用率は0.8%減であったが、収入は約8万円増となった(報酬改定により微増)。令和6年度の年間の収支見込みは約20万円の黒字を見込んでいる。

《利用率》	R6年度実績	令和5年度実績	前年度との差
	59.6%	58.5%	1.1%
(内訳)			
平日	83.0%	83.3%	△0.3%
土日祝	10.6%	6.7%	3.9%

《給付費等収入》

	R6年度実績	令和5年度実績	前年度との差
介護給付費収入	約529万円	約458万円	71万円
都加算の収入	約193万円	約177万円	13万円
総額	約722万円	約635万円	87万円

年間目標の達成率 1.3%

8 その他の課題

1) 夜間等緊急時の対応

夜間等の緊急時は、併設しているホームの職員と連携し支援態勢の確保を行うこととなっているが、夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。

9 事故報告

5月 怠薬事故が1件発生した(健康被害なし)。薬の保管についてはマニュアル通りの管理を行い、前日に服薬担当者から申し送りを行っていたが、当日の職員が服薬は利用者の自己管理だと思い込んでしまい怠薬が発生した(休日のため服薬担当者が不在であった)。改めて個別支援計画を支援前に毎回確認することを周知した(これ以降に業務チェック表を開始した)

10 実施状況

1) サービス実施日数 自:令和6年4月1日 至:令和7年3月31日
225日間(内、土・日・祝日開設13日間)

11 利用状況

1) 利用登録者数 51名
2) 実利用者数 30名
(1) 利用目的

①緊急利用	9名	(令和5年度 10名)
②体験利用	21名	(令和5年度 18名)
合計	30名	(令和5年度 28名)

3) 延べ利用者数

(1) 利用目的

①緊急利用	152名	(令和5年度 156名)
②体験利用	283名	(令和5年度 272名)
合計	435名	(令和5年度 428名)

(2) 平日・土日祝日利用

①平日	410名	(令和5年度 410名)
②土日祝日	25名	(令和5年度 16名)

1.2 利用者状況

1) 年齢別

	実人数	延べ人数
・20歳以上30歳未満	18名	247名
・30歳以上40歳未満	8名	114名
・40歳以上50歳未満	4名	74名
合計	30名	435名

2) 区分別

	実人数	延べ人数
・区分2	1名	12名
・区分3	4名	73名
・区分4	10名	124名
・区分5	4名	84名
・区分6	11名	142名
合計	30名	435名

3) 性別

	実人数	延べ人数
・男性	24名	367名
・女性	6名	68名
合計	30名	435名

4) 居住状況

	実人数	延べ人数
・管内居住	23名	355名
・管外居住	7名	80名
合計	30名	435名

1.3 環境の整備

施設内外の美化及び整理整頓を行い、衛生保持、また転倒の防止に務めた。

1.4 健康管理

1) 関係事業所や家族との連携を密にし、健康状態の把握に努める。

利用時に風邪症状や身体にあざや傷などがみられた場合は、日中活動先や家族等へ報告を行い、心身の状況等について共有を図った。

2) 感染症対策を行う。

検温、手洗い、消毒、時間差の食事などの基本的な感染対策を行った。ただし、マスクについては、着用を拒否する利用者が多く、徹底ができなかった。新型コロナウイルス感染症については、とまり樹はうすで感染が広がることはなかった。

1.5 防災計画

併設しているグループホームと合同で、災害時避難訓練を年2回実施した。